

事務事業評価調書

1. 基本情報

事務事業名	観光振興事業			事業開始年度		実施計画 事業番号	1-2-②-6
担当課	水産商工観光課	担当係	商工観光係	担当者	今村 正樹		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☒ 町が直接実施 ☒ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他(						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	1	豊かな自然を生かした活力ある産業のまちづくり
	政策	2	各産業と連携した活力ある商工・観光の振興
	施策	②	地域の素材を生かした観光、サンタランドの推進
	具体的な施策	1	観光案内所の設置と情報発信の充実
めざす目的成果	観光振興及び地域振興を図るため、観光案内所設置により来訪者へのサービスを図るほか、町外在住の応援リーダーを通じ、本町の情報を広く国内外に発信し、町の知名度の向上を図る。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	観光客、広尾町にゆかりのある方	
	手段・手法	観光案内や観光パンフレット配布により情報提供。 応援リーダーに名刺を配布し、本町のPR活動をする。	
	サービス内容	観光案内、観光グッズの販売、観光パンフレットの配布、本町のPR	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		28年度(決算)		29年度(決算)		30年度(予算)		30年度事業費の内訳			
コスト	事業費	大丸山森林公園観光案内施設管理委託料		3,148		3,197		3,736		[委託料] 観光案内施設管理委託料3,736 [印刷製本費] 応援リーダー名刺代65	
		観光パンフレット印刷代		950							
		応援リーダー名刺代		6		26		65			
		事業費合計		4,104		3,223		3,801			
	人件費	常勤職員(延)		10人日 322		3人日 94		3人日 96			
		臨時職員(延)		時間 0		時間 0		時間 0			
		人件費合計		322		94		96			
総事業費		4,426		3,317		3,897					
財源内訳	国道支出金								30年度財源内訳の積算		
	地方債										
	その他特定財源										
	一般財源		4,426		3,317		3,897				
	財源合計		4,426		3,317		3,897				
H29年度実施内容		観光案内、観光グッズの販売、観光パンフレットの配布、本町のPR									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H28実績 H28(目標)		H29実績 H29(目標)		目標年度 最終目標値 H30(目標)	
大丸山森林公園入場者数		入場者数が多いほど、観光振興が期待できる。		人		27,140 ()		21,870 ()		H 32 年度 (30,000)	
								— ()		H 年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H28実績 H28(目標)		H29実績 H29(目標)		目標年度 最終目標値 H30(目標)	
								— ()		H 年度 ()	
								— ()		H 年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1 次 評 価 (自 己 評 価)	1. 妥当性の評価			
	20	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		説明
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)		
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
		☒ 現手法が最適である(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)		
	/20		説明	応援リーダーである町外者から広尾町をPRしていただくことは、手法としては最適である。
	2. 公平性の評価			
	16	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		説明
		☐ 全住民に対し公平である(10) ☒ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)		
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
☒ 十分適切である(10) ☐ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)				
/20		説明		
3. 有効性の評価				
12	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。		説明	
	☐ とても有効である(10) ☒ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)			
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。			
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)			
/20		説明		
4. 効率性の評価				
20	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎているか。		説明	
	☒ 比較的低コストである(10) ☐ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)			
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。			
	☒ 効率性が高い(10) ☐ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率である(0)			
/20		説明	民間業者と比べて安価である。	
5. 優先性の評価				
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。		説明	
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)			
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。			
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)			
/20		説明	国内外に本町の情報を発信するためには必ず必要である。 観光客などに周知が図られなくなるため、影響は大である。	

合計	88 /100	事業実施の課題・方向性	現在の観光パンフレットの形が見やすいのか、利用しやすいのか検討の必要がある。
----	------------	-------------	--

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2 次 評 価 (政 策 プ ロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		
主 管 者 会 議 評 価	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		

事務事業評価調書

1. 基本情報

事務事業名	サンタランド活性化事業			事業開始年度		実施計画 事業番号	1-2-②-8
担当課	水産商工観光課	担当係	サンタランド係	担当者	今村 正樹		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☒ 町が直接実施 ☒ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他()						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	1	豊かな自然を生かした活力ある産業のまちづくり
	政策	2	各産業と連携した活力ある商工・観光の振興
	施策	②	地域の素材を生かした観光、サンタランドの推進
	具体的な施策	6	サンタランドの活用
めざす目的成果	サンタランドの町として再認識が図られ今後のまちづくりにつながっていくとともに、町外に対しサンタランドのPRを有効的に行え、誘客につながり商工観光振興及び産業振興を図る。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	町民、観光客	
	手段・手法	サンタの家等の整備、ツリー点灯式案内、サンタランドコンサート案内、恋人の聖地としての案内、ホテル繁殖事業の実施	
	サービス内容	サンタの家開館、ツリー点灯式の開催、サンタランドコンサートの開催、恋人の聖地としての活動、ホテル見学開催	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		28年度(決算)		29年度(決算)		30年度(予算)		30年度事業費の内訳			
コスト	事業費	サンタの家等施設整備		1,100				サンタランドイベント ・ノルウェー大使招へい200 ・ツリー点灯式演奏謝金330 ・ツリー点灯式プレゼント費100 ・ツリー点灯式チラシ印刷代39 ・ツリー点灯式食料費10 ・花火打上げ委託料708			
		サンタランドイベント		838		739				1,387	
		サンタランドコンサート		540		542					
		恋人の聖地参画手数料		162		162				162	
		ホテル繁殖試験委託料		189							
		サンタプロジェクト委託料		606		645				762	
		事業費合計		3,435		2,088				2,311	
	人件費	常勤職員(延)		59 人日	1,897	59 人日	1,839	50 人日	1,592		
		臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0		
		人件費合計		1,897		1,839		1,592			
総事業費		5,332		3,927		3,903		30年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金								まちづくり基金繰入金		
	地方債										
	その他特定財源		1,300		1,600		1,200				
	一般財源		4,032		2,327		2,703				
	財源合計		5,332		3,927		3,903				
H29年度 実施内容		ツリー点灯式開催(花火打上げ含む)、サンタランドコンサート開催(2回)、ホテル観賞、北海学園大学によるサンタプロジェクト実施									

活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H28実績	H29実績	H30(目標)	目標年度
			H28(目標)	H29(目標)		最終目標値
大丸山森林公園入場者数	入場者数が多いほど、観光振興が期待できる。	人	27,140	21,870	—	H 32 年度
			()	()	(28,000)	(30,000)
					—	H 年度
			()	()	()	()
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H28実績	H29実績	H30(目標)	目標年度
			H28(目標)	H29(目標)		最終目標値
					—	H 年度
			()	()	()	()
					—	H 年度
			()	()	()	()

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1次評価(自己評価)	1. 妥当性の評価			
	14	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)	説明	
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
		☐ 現手法が最適である(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☒ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)	説明	目指す目的成果から少し遠い、サンタプロジェクトの実施方法について改善が必要。
	2. 公平性の評価			
	16	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		
		☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)	説明	
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
		☐ 十分適切である(10) ☐ 受益者負担なし(10) ☒ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)	説明	サンタプロジェクトの実施については、廃止か縮小を検討する。
3. 有効性の評価				
16	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。			
	☒ とても有効である(10) ☐ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)	説明		
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。			
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)	説明		
4. 効率性の評価				
12	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎているか。			
	☐ 比較的低コストである(10) ☒ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)	説明	民間企業と比べて安価である。	
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。			
	☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率である(0)	説明		
5. 優先性の評価				
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。			
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)	説明	サンタランドコンサート、ホテル試験繁殖は廃止する。	
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。			
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)	説明		

合計	78 /100	事業実施の課題・方向性	サンタランドコンサート、ホテル試験繁殖は、実施終了する。サンタランドコンサートで実施していた内容を点灯式のイベントに組み込む。サンタプロジェクトは、実施内容を精査して廃止か縮小で検討する。
----	------------	-------------	--

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価(政策プロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☐ 継続 ☐ 改善 ☒ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小 ☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		
	所期の目的を達成したと見込まれるため、サンタランドコンサート及びホテルの繁殖試験、サンタプロジェクトは平成30年度で事業廃止とする。		
主観者会議評価	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小 ☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		
	サンタランドは広尾町の重要な観光資源なので、事業は継続していくが、事業内容は見直す。		

事務事業評価調書

1. 基本情報

事務事業名	移住体験事業			事業開始年度	H21	実施計画 事業番号	1-2-④-11
担当課	企画課	担当係	企画防災係	担当者	宝泉 大		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☒ 町が直接実施 ☐ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他()						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合 計画(基本計画)上 の位置づけ	基本目標	1 豊かな自然を生かした活力ある産業のまちづくり
	政策	2 各産業と連携した活力ある商工・観光の振興
	施策	④ 移住促進による地域活性化
	具体的な施策	4 移住体験事業の充実
めざす目的成果	・移住体験住宅を整備し、移住希望者に本町での生活を実際に体験してもらうことにより、移住・定住の促進を図る。	
事業 内容	対象 (誰を、何を)	・移住希望者
	手段・手法	・移住体験住宅を整備し、移住希望者に有料で提供する。
	サービス内容	・ワンストップによる受付、相談サービス ・体験型観光プログラムの提供(有料)

3. 実施結果「DO(実施)」

単位: 千円		28年度(決算)		29年度(決算)		30年度(予算)		30年度事業費の内訳
コスト	事業費	需用費	226		167		298	[需用費] ・消耗品費: 36 ・燃料費: 61 ・光熱水費: 151 ・修繕料: 50 [役務費] ・通信運搬費: 157 ・汚水ますくみ取料: 7 ・建物災害共済分担金: 5 [使用料及び賃借料] ・放送受信料: 16
		役務費	176		150		169	
		使用料及び賃借料	15		15		16	
	事業費合計	417		332		483		
	人件費	常勤職員(延)	44.0 人日	1,414	32.0 人日	997	32.0 人日	
臨時職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0	
人件費合計		1,414		997		1,018		
総事業費		1,831		1,329		1,501		30年度財源内訳の積算
財源内訳	国庫支出金							・移住体験住宅貸付料: 175千円 ・移住体験住宅入居者負担金: 77千円
	地方債							
	その他特定財源	427		339		252		
	一般財源	1,404		990		1,249		
	財源合計	1,831		1,329		1,501		
H29年度実施内容		移住体験住宅2棟(広尾市街1棟・音調津1棟)を移住希望者に提供。利用実績は、広尾市街が9人、延べ138日、音調津が6人、延べ87日だった。29年度から体験型観光プログラムを移住体験利用者に提供。「サケさばき、イクラ造り体験」を2人、「きのこ狩り体験」も2人、合計で4人が体験した。						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H28実績 H28(目標)	H29実績 H29(目標)	H30(目標)	目標年度 最終目標値
移住体験住宅の利用者数		移住体験住宅の利用者が多いほど、本町への移住・定住の増加が期待できる。		人	21 (-)	15 (-)	- (25)	H 32 年度 (25)
移住体験住宅の利用日数		移住体験住宅の稼働率が高いほど、本町への移住・定住の増加が期待できる。		日	274 (-)	225 (-)	- (300)	H 32 年度 (300)
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H28実績 H28(目標)	H29実績 H29(目標)	H30(目標)	目標年度 最終目標値
移住者数(移住体験住宅の利用者に限る)		少子高齢化が進む中、本事業は移住・定住の増加を目指すものである。		人	0 (-)	0 (-)	- (2)	H 32 年度 (2)
							-	H 年度

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1次評価 (自己評価)	1. 妥当性の評価				
	16	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		説明	移住・定住対策として、町が積極的に行うべき事業である。
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)			
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。			
		☐ 現手法が最適である(10) ☒ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)			
	2. 公平性の評価				
	16	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		説明	移住体験住宅の利用者に対して、公平性を欠くところはない。
		☐ 全住民に対し公平である(10) ☒ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)			
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。			
		☒ 十分適切である(10) ☐ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)			
3. 有効性の評価					
16	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。		説明	移住・定住対策として、本事業を継続的に実施することは、極めて有効であると考えられる。	
	☒ とても有効である(10) ☐ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)				
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。				
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)				
4. 効率性の評価					
10	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎではないか。		説明	移住体験住宅は旧教員住宅を活用しており、設備投資はない。また、ランニングコストも必要最小限としている。	
	☒ 比較的低コストである(10) ☐ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)				
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。				
	☐ 効率性が高い(10) ☐ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☒ 非効率である(0)				
5. 優先性の評価					
16	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。		説明	少子高齢化や人口の社会減は、本町における重大な課題であり、地域課題の解決に向けて、移住・定住対策は総合戦略の重点プロジェクトに位置付けており、戦略的に実施する必要がある。	
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)				
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。				
	☐ 影響は大きい(10) ☒ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)				

合計	74 /100	事業実施の課題	本事業を行うことにより、交流人口の増加は見られるものの、成果として移住・定住の増加が図られていないことが大きな課題である。29年度から体験型観光プログラムの提供をスタートさせ、移住体験住宅の利用者が地域住民と交流しながら地域資源に触れる機会を設けたが、今後も移住希望者のニーズを敏感に捉え、それに見合ったサービスを提供することが肝要である。
----	------------	---------	--

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (政策プロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☐ 継続 ☒ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点) 利用者アンケートの結果を生かして、事業を改善していく必要がある。 また、10年事業を実施して、移住者の実績がゼロということから、事業の方向性を検討すべきではないか。		
主管者会議評価	事業の方向性		☐ 拡大 ☐ 継続 ☒ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間:H 年度~H 年度) ☐ 廃止・完了(時期:H 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小
	総合コメント 移住体験住宅が安価な宿泊施設代わりとされている現状であり、体験プログラムの充実など違う視点での移住体験事業を検討すべき。		